

バスのうんてんしゅさん

鹿児島県 田上小学校 1年 江口 健太

ぼくは、ぎんいろの18ばんバスにのりました。きょうもみんなといっしょです。

でも、せきがあまりあいていません。

「みんなはこっちにのっていいよ。ぼくは、うしろのほうにのるからいいよ。」

ぼくだけうしろのせきにのりました。

「はっしやします。」

うんてんしゅさんのこえで、バスがブルンと音を立ててしゅっぽつします。

バスは、ゆっくりすすみます。ときどき、ガタンとゆれたり、シュウツと音を立ててとまったりします。とちゅうで、ピンポンと音になるととまります。ぼくは、(きょうもちかくになったらピンポンおすぞ)とおもっていました。

「ぼく、ぼく。」

だれかがぼくのからだをゆすっています。

「ねちゃったんだね。ぼくは、どこでおりるんだったかな。」

ぼくは、びっくりしました。いつもうんてんせきにすわっているうんてんしゅさんが、ぼくにおはなしをしていたからです。ぼくは、いつのまにかねむってしまっていました。

「いつもは、でぐちばしでおりるんだけど、まちがえてねてしまいました。ごめんなさい。」

ぼくは、あやまりました。うんてんしゅさんは、

「だいじょうぶだよ。おじさんこそ気づかなくてごめんねえ。」

と、やさしくわらいながらいました。

「でぐちばしのほうなんだね。ちょっとまってね。」

そういうと、うんてんしゅさんは、だれかとでんわでおはなしをはじめました。ぼくは、(かえれないかもしれない。どうしよう)と、しんぱいでしんぱいで、ずっとおじさんのほうを見ていました。おじさんがぼくのほうへきました。

「いまからおくっていいこうね。でぐちばしのほうでいいんだね。」

といいました。ぼくがうなずくと、ブルンと音をたててバスがはしりだしました。

「つぎは、でぐちばし。つぎは、でぐちばし。」

ぼくは、ピンポンをおしました。

「けんた、どうしておそかったの。」

バスをおりると、おかあさんがまっついてくれました。ぼくは、うんてんしゅさんがおくってくれたことをはなしました。そして、おかあさんと、

「うんてんしゅさん、ありがとう。」

といいました。うんてんしゅさんは、

「おかあさんとあえてよかたったなあ。またバスにのってね。」

といいました。ぼくはえがおで、

「うん。こんどはねません。」

といいました。うんてんしゅさんは、にっこりしました。

「はっしやします。」

バスは、ブルンと音をならしてはしっていきました。

「うんてんしゅさん、ありがとう。」

ぼくは、はしっていくバスをずっとみながらバイバイしました。